

令和7年度 学校評価報告

草加市立新田小学校

(令和8年2月2日作成)

1 学校教育目標 生き生き元気 伸び育つ新田っ子 ～よく学ぶ子・思いやりのある子・たくましい子～ 共に育つ新田小学校	
2 重点目標・努力目標 <ul style="list-style-type: none">・草加っ子の基礎・基本の定着・信頼され、潤いと特色ある教育活動の推進・報告連絡相談の徹底と開かれた学校づくりの推進・研修の充実・安心安全教育の推進・清潔で美しい教育環境の整備	3 前年度の成果と課題 <p>成果 ○各担当が、研修した内容を全教職員で共通理解し、指導することで、学力向上の成果を上げた。</p> <p>課題 ●研修内容や各種取組を徹底することでさらなる学力面・規律面の向上を図る。</p>

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○「目指す学校像」に基づき学校課題を明確化し、意欲的に学校経営へ取り組むことができた。 ●教職員への指示・伝達の効率化は一定の成果があるが、より組織としての機能強化が必要である。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○本発表に向けて授業研究を中心に研修会を実施し、毎回課題を明確に教員の授業力向上を図ることができた。 ○幼保小連携の強化と研修会の工夫改善を図る。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	B	○校内の事故防止に向け、安全指導や保健指導を計画的に行うことができた。修繕が必要な箇所は速やかに修繕し、瑕疵による事故0を継続することができた。 ●反省に基づく危機管理マニュアルの更なる改善を図る。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○倫理確立委員会等を通して、情報漏洩や個人情報の管理について職員の意識向上を図り、個人情報に関し事故0を継続できた。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○学校だよりやブログを通して、計画的に地域や保護者に情報発信することができた。音楽朝会の公開を継続することができた。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	A	○保育園や幼稚園との交流給食やどんぐりフェスティバルでの交流を通して、目指す子ども像の実現に向けた取組の充実を図ることができた。 ●架け橋期カリキュラムの完成と授業研究検証を図る。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各学級で週間の学習予定表を作成・配布することにより計画的に授業を進めることができた。学期毎に部会を開き教育計画の改善を図ることもできた。 校務分掌の職務内容や構成の仕方を見直し、負担の平準化によりつながるよう、組織的な対応を継続する。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの観点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究会を計画的に実施したことで、わかる授業をイメージしながら、指導方法の工夫や評価の工夫について改善策を検討することができた。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「考え、議論する道徳」の実践に向けて授業研究を実施した。指導方法の改善、生活に生きる道徳について研修し、実践力を高めることができた。 評価方法について充実を図る。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> 事前にALTと綿密な打合せを行うことでねらいに即した授業を進めることができた。 指導力の改善を図り、児童が外国語学習に楽しめるような授業改善を図る。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や縦割り活動を通して児童の所属感や達成感を味わわせ、学年学級経営の充実を図ることができた。 代表委員会を中心とした取組を徹底する。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動の充実を図りながら、計画的に実施することができた。 自校の実態に即した年間指導計画作成の工夫・授業改善を図る。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導委員会で児童の現状について情報交換を行い、必要に応じて組織で対応することができた。 あいさつ・黙動清掃・廊下歩行について指導の充実を図り、新田小の伝統を大切に育む。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> 高学年を中心に自分の将来について「考え・調べ・深める」指導を行うことができた。 進路指導を含め、中学校との連携の充実や外部講師の活用を図る。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導や特別支援教育の視点で授業と学級経営について観察を行い、適正就学などにつなげていくことができた。 個別の支援計画をもとに個に応じた指導を進めることを継続していく。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアによる読み聞かせ、図書室の充実、各種イベント、図書便りの充実により図書に親しむ児童が増え、心豊かになってきた。 読書量の増加及び読み取る力の育成を図る。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学級で授業にAIドリル、タブレットの活用をしたことで、学習内容に対して興味関心が高まり学習意欲の向上に繋がった。 情報モラル、情報リテラシー教育の充実を図る。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育週間を設定し人権についての授業で児童個々の人権尊重意欲を高めることができた。 児童一人ひとりに人権感覚を身につけさせるため、継続的な指導と授業開発を行い工夫改善する。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	⑬研修と修養	<ul style="list-style-type: none"> ・研修体制の確立 ・授業実践 ・校内の環境整備 ・指導計画の改善 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の思いや願いを生かし、「探究心・共生心・自覚心」の高まりにつながる研修体制をつくり、課題意識をもった研修ができた。 ○研修の成果を指導計画に位置付け、より実践的なものへと改善を図ることができた。
	⑭幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小中連絡協議会 ・幼保小連絡協議会 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生活科・総合的な学習の時間を核とした関連的指導の充実を図ることで教科横断的な教育課程の実施ができた。 ○架け橋期カリキュラムの共同開発や、生活科を中心とした園児との交流活動では、幼児と児童がともに主体的に活動する姿が見られ、幼保小の連携が地域内で成果を上げることができた。
	⑮家庭・地域との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会 ・安全・安心地域懇談会 ・健康教育 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○目指す子供像の実現に向けて、教育講演会の開催やふれあい祭りの開催、敬老会の運営協力、地域行事への積極的参画など成果を上げた。 ○早寝・早起き、朝ごはん、朝排泄、家庭学習のすすめ、家庭学習強化週間等の家庭連携の取組の充実を図ることができた。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- 学校経営においては、「目指す学校像」の実現に向けて、学校経営方針の共有を図りながら、教職員一人ひとりの経験や特性を生かした組織運営が展開された。
- 各種会議を通して児童の姿や改善策を継続的に伝達し、出席率の改善や適正就学へのつながりなど、確かな成果が見られた。
- 学校運営協議会・地域懇談会・教育講演会の開催、授業公開やブログによる積極的な情報発信により、学校・家庭・地域の連携が深化し、「開かれた学校づくり」が着実に前進した。
- 安全面では、定期的な安全点検や迅速な修繕対応を継続し、新校務支援システムの導入後も文書管理を適切に行うことで、事故ゼロを維持するなど、安全・安心な学校づくりが安定して実施された。
- 幼保小中連携・一貫教育では、年間を通した協議や交流、カリキュラム作成への協働により、幼児教育とのつながりを強めたり、地域に根ざした学びの基盤を確立したりすることができた。
- 教職員に対しては、継続的な声かけや状況把握、倫理意識の啓発に努めたことで、明るく健全な職場環境づくりに寄与できた。

6 次年度の改善策

- 組織運営の更なる質向上である。組織運営に関する肯定的評価は前年度と同程度であり、教職員の参画意識や協働体制を一層高める工夫が求められる。
- 学校・家庭・地域の連携体制の継続と拡充が必要である。教育講演会や地域行事への協力など、本年度の取組を継続しつつ、新たな協働の機会を創出していく必要がある。
- 老朽化した施設・設備への対応と、新校務支援システム導入に伴う個人情報管理の厳格化が引き続き重要な課題となる。安全で安心できる環境整備を維持するため、関係機関との連携を継続し、計画的な点検・修繕を進める必要がある。
- 一貫教育のさらなる充実のため、架け橋期カリキュラムの完成および委嘱研究の成果を次年度教育計画へ適切に反映させることが求められる。
- 教職員への個別指導・助言において、個々のニーズに応じた指導の充実と、理解・納得を促すコミュニケーションの質向上が必要である。